

🔴 まわって集めてゲットしよう！〈スタンプラリー〉の コース



《スタンプ設置ポイント》

- ★ 1：遺物実測見学コーナー①
- ★ 2：遺物実測見学コーナー②
- ★ 3：遺物展示・解説コーナー
- ★ 4：整理調査体験コーナー（拓本・マコ体験）
※ 見学のみでも押印が可能です
- ★ 5：すてきな〈スタンプラリー〉景品交換場所

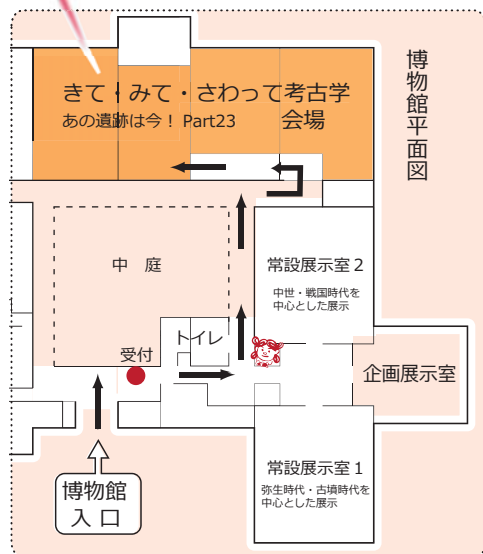


全部あつめると・・・

4500年前の貝塚から出土した貝の化石や素敵な記念品がもらえるで！



プレゼント例
縄文貝塚出土の貝（ホンモノ！）



PR! レトロ・レトロの展覧会

2015年度に県内で発掘された遺跡の情報を、さらに詳しく、さらに大々的に展示します。TVや新聞をにぎわせた塩津港遺跡の出土品なども多数展示！土・日には火起こし体験やプラ板製作も楽しめます。この夏は、家族でGO!

期間：7月23日（土）～8月28日（日）

時間：月～金 9時～17時

土日祝 13時～17時

入場：無料（事前申し込み不要）

会場：滋賀県埋蔵文化財センター※

問合：公益財団法人滋賀県文化財保護協会

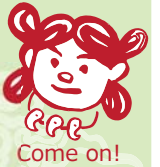
077-548-9780

くわしくは



※JR 琵琶湖線瀬田駅からバス
滋賀医大行（文化ゾーン前）下車
無料駐車場もあります

きて・みて・さわって考古学



あの遺跡は今！ Part23

平成 28(2016)年 7月 16日（土）～ 18日（月祝）

公益財団法人滋賀県文化財保護協会

ごあいさつ

公益財団法人滋賀県文化財保護協会は、県内各地の遺跡の発掘調査や、そこで出土した資料の整理調査を行っています。夏の恒例イベント〈あの遺跡は今！〉は、整理調査の成果を、より深く・より楽しくご理解いただけるように平成17年度から毎年実施しています。

新たな資料や成果を積極的に公開・展示し、整理調査の様子をより間近で見学していただけるよう、また整理作業体験などとおして、ホンモノの出土品にも直接触れただけのように工夫を凝らしました。滋賀の歴史を体感し、考古学や文化財への興味と親しみをお持ちいただくきっかけとなるような、楽しい思い出になれば幸いです。



公益財団法人
滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をおとして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

理事長 吉川 良幸

◆関連遺跡位置図



年代	時代区分	主な出来事	今回取り扱う遺跡とその時期
B.C.500年	縄文	稲作 始まる	●
	弥生	卑弥呼 生まれる	●
300年	古墳	前方後円墳 流行	●
		継体大王 即位	●
600年	飛鳥	聖徳太子 生まれる	●
700年	奈良	近江大津宮 遷都	●
		平城京 遷都	●
800年	平安	紫香楽 離宮を造られる	●
		平安京 遷都	●
1200年	鎌倉	義経・弁慶 活躍	●
		源頼朝 征夷大将軍になる	●
1300年	室町	足利尊氏 征夷大将軍になる	●
		織田信長 安土城に移る	●
1600年	江戸	豊臣秀吉 太閤になる	●
		石田三成 関ヶ原の戦いで敗れる	●
		徳川家康 征夷大将軍になる	●
		徳川吉宗 8代将軍になる	●

天界へと響く音色・・・木製琴

上御殿遺跡（かみごてん：高島市安曇川町）



上御殿遺跡では、古墳時代から平安時代にかけての祭祀の道具が、川の中から数多く出土しています。

「琴（こと）」はそのうちのひとつで、古墳時代後期（約1450年前）のものです。箱状の部品が付属しない板状のもので、糸をくりつける6本の突起が残っています。

琴は、祭祀や葬送の中で使用されるなど神聖な楽器として扱われていました。『古事記』には、天皇が琴を弾いて託宣（神のお告げ）を乞う場面が記されています。また、古墳に据えられる埴輪には、琴をつまびく姿をした人物が見られます。これらの奏者は、ほとんどが男性でした。水辺に設けられた祭祀の場で、琴をつまびく男性の姿が思い浮かびます。



参考データ
へGO!



琴 長さ48.9cm

村の安全を守る・・・石積の堤防

土位遺跡（どい：東近江市神田町）



土位遺跡は愛知川の左岸にある遺跡です。2015年の調査で、江戸時代後期に作られた石積護岸施設を発見しました。かつての愛知川は、大雨の際に氾濫・洪水を繰り返す〈暴れ川〉で、人々はその洪水から集落や田畑を守るため、必死で堤防を築いてきました。今回発見した石積護岸施設も、堤防の一部です。

この遺跡では、平安時代後半（11～12世紀）の村の跡も見つかり、たくさんの食器類がまとまって出土しました。特に多い皿類の大きさを測ってみると、8cm前後と14cm前後のものが目立ちます。大小2つのお皿のセットが揃えられていたのかも知れません。中国から輸入された〈白磁碗〉も割れずに出土しています。ぜひ、展示をご覧ください！



石積護岸
施設の一部



白磁碗

水漏れ止めた・・・船板に残る縄

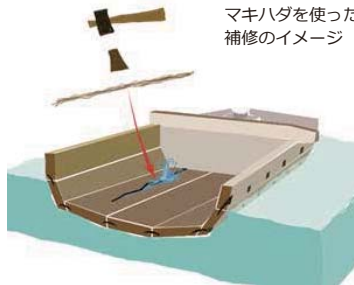
塩津港遺跡（しおつこう：長浜市西浅井町塩津浜）



2015年度に出土した船板の調査を進めたところ、水漏れを防ぐために詰められていた縄状のもの「マキハダ（槓肌/槓皮）（マイハダとも言う）」を確認しました。

この船板は内側が腐食し、中央にできた縦の割れ目からは水漏れが発生していたと考えられます。その水漏れを止めるために、直径1cm程度の縄状のもの（マキハダ）を約1mにわたって割れ目に押し込んでいました。

出土した船板は、「板作りの構造船」の部材で、マキハダは構造船を作るうえでの必須技術です。今回確認できた船板とマキハダは、発掘調査によって出土した例としては全国初の発見例です。しかも12世紀代のものですから、現存例を含めても日本最古の資料だということになります。スゴイでしょ。



マキハダを使った
補修のイメージ

安らかに眠れ・・・古墳と蔵骨器

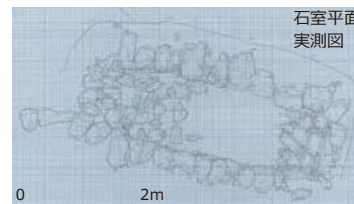
石原内湖遺跡（まつばらないこ：彦根市松原町）



2015年度の発掘調査では、古墳時代後期（6世紀）の古墳石室を発見しました。石室の床には、土器などが副葬されており、坏や提瓶などが出土しました。

このうち、坏はいわばお椀です。提瓶は水筒のようなもので、液体を入れて紐で吊下げられるものです。これらを使って、亡くなった人に食べ物やお酒などをお供えたのかもしれない。

石室から10mほど離れたところには、平安時代（10世紀）の壺が、おそらく蔵骨器として埋められていました。時代を超えて、墓地として利用されていたことがうかがえます。



石室平面
実測図



提瓶

参考
データへ
GO!



参考
データへ
GO!

